

Ⅳ 保険持株会社及びその子会社等の主要な業務

1 直近の事業年度における事業の概況

当期におけるわが国経済は、個人消費は伸び悩んだものの、アジア向けを中心に輸出が増大し民間設備投資も堅調に推移するなど、景気持ち直しの動きが見られました。また、金融面においては、日本銀行による潤沢な資金供給のもとで、短期金融市場ではきわめて緩和的な状況が維持されました。

生命保険業界においては、合併、相互会社から株式会社への転換、持株会社を軸とした再編などへの動きが見られました。また多くの会社が、引き続き低金利による運用難に苦しむこととなりました。法律面では、保険契約者保護機構の枠組みを、2006年3月末日まで延長することなどを定めた改正保険業法が施行されました。

このような状況下において、当社は保険持株会社として次のような取り組みを行なってきました。

子保険会社であるアクサ生命保険株式会社の資本増強を適に行ない、経営基盤の一層の強化を図りました。

また、株主としての的確かつ公正な各子会社の経営管理を行なうため、昨年6月定時株主総会の改選により取締役1名を増員するとともに2名の新たな社外取締役を迎え、取締役会の監督機能の強化を図るとともに、社外の弁護士等の有識者による業務改善監視委員会を3カ月毎に開催し、子保険会社の業務適正化に努めました。

子保険会社に対する資本増強及び資金面の主な動きについては、以下のとおりです。

(1)2003年4月28日親会社アクサ・エス・アーより170億円を借入れ、同年4月30日アクサ グループライフ生命保険株式会社に劣後特約付貸付金として同額を貸付けました。

(2)2003年9月26日親会社アクサ・エス・アーより200億円を借入れ、同年9月29日アクサ生命保険株式会社の普通株式20,000株（発行総額200億円）の増資引受金200億円の払い込みを行ないました。

なお、2004年2月19日スタンダード・アンド・プアーズ社（S&P）は、アクサ生命保険株式会社並びにアクサ グループライフ生命保険株式会社の保険財務力格付けを、「A A -」のまま据え置くと公表しました。

当連結会計年度における主要業績は、次のとおりです。

保有契約高については、個人保険は12兆7,327億円（前年比98.0%）、個人年金保険（年金支払開始前契約の年金支払開始時の年金原資と年金支払開始後契約の責任準備金の合計）は1兆7,947億円（前年比86.6%）、団体保険は10兆845億円（前年比89.6%）、団体年金保険（責任準備金）は1兆361億円（前年比93.2%）となっています。資産については1,488億円増加し、4兆1,164億円（前年比103.8%）となっています。そのうち主なものは、有価証券1兆7,311億円（前年比167.9%）、金銭の信託1兆3,323億円（前年比69.2%）、貸付金3,681億円（前年比76.6%）となっています。

また、収支状況をみると、収入面では、保険料等収入6,516億円（前年比81.4%）、資産運用収益1,628億円（前年比111.5%）等となっており、これらによる経常収益は8,248億円（前年比86.9%）となっています。一方、支出面では、保険金等支払金5,570億円（前年比117.3%）、責任準備金等繰入額613億円（前年比22.4%）、資産運用費用509億円（前年比35.2%）、事業費931億円（前年比97.2%）等となっており、これらによる経常費用は7,918億円（前年比77.9%）となっています。よって経常利益は330億円（前年経常損失682億円）、当期純利益は378億円（前年当期純損失1,314億円）となりました。

2 主要な業務の状況を示す指標

（単位：百万円）

項 目	2003年度 (2003年4月 1日から 2004年3月31日まで)	2002年度 (2002年4月 1日から 2003年3月31日まで)	2001年度 (2001年4月 1日から 2002年3月31日まで)	2000年度 (2000年4月 1日から 2001年3月31日まで)
経常収益	824,883	948,723	664,218	811,816
経常利益または経常損失（△）	33,019	△ 68,227	△ 85,884	△ 15,443
当期純利益または当期純損失（△）	37,876	△ 131,477	△ 63,584	△ 9,771
純資産額	147,147	53,254	128,160	234,459
総資産額	4,116,443	3,967,620	3,527,386	3,510,516